

なぜ「英語が話せないの」

〈32〉

会話上達法 第三部

・H・ロレンスの小説を次々に読破。アカサ・クリスティの探偵小説だけでも八十冊は読んだ。「単語や文法にいちいちこだわらず、声を出して徹底的に読むことが大切」である。

「英文を讀むときは、辞書を先に引くのではなく、後から使おう。少々、知らない単語があっても、前後の文脈から推量できるし、自分の推量に狂いがないかを確かめるために辞書を引くよう習慣づけよう」

米國に十四年間、留学した加藤恭子さん(上智大講師)は、その著「こんなふうに英語を学んだらいい」(この書)に書いてある。

久留米市東町で「実践英語セ

「ミニ」を開いている。戸田昭二・学院長(左)は、こうした英語教育に反発して西南大学時代教材のシェイクスピアの真夏の夜の夢」を辞書なしで読んだ。

「辞書を引かない代わりに、一章ごと声を出して何回も読むと読むと、未知の単語の意味がぼんやり分かる。暗記するよりもいにもっと、推量に相当の自信が出てきます。結局、この小説を一年がかりで百回近く読みました。あとを辞書で自分の推量が当たったのを確かめたとき



単語や文法にこだわらず、何度も音読しようと語る戸田先生

戸田さんは、この要領で「ミングウェイ、フォークナー、D

「声を出して読もう」 知らない単語は推量で

米國の大学に留学する日本人が、第一に驚くのは宿題の量。一週間に最低、三冊は読まなければならないというレポート、そして試験。これが毎週毎週続く。

「H・ロレンスの小説を次々に読破。アカサ・クリスティの探偵小説だけでも八十冊は読んだ。」

「単語や文法にいちいちこだわらず、声を出して徹底的に読むことが大切」である。

「辞書を引かない代わりに、一章ごと声を出して何回も読むと読むと、未知の単語の意味がぼんやり分かる。暗記するよりもいにもっと、推量に相当の自信が出てきます。結局、この小説を一年がかりで百回近く読みました。あとを辞書で自分の推量が当たったのを確かめたとき

「ミニ」を開いている。戸田昭二・学院長(左)は、こうした英語教育に反発して西南大学時代教材のシェイクスピアの真夏の夜の夢」を辞書なしで読んだ。

「辞書を引かない代わりに、一章ごと声を出して何回も読むと読むと、未知の単語の意味がぼんやり分かる。暗記するよりもいにもっと、推量に相当の自信が出てきます。結局、この小説を一年がかりで百回近く読みました。あとを辞書で自分の推量が当たったのを確かめたとき

「ミニ」を開いている。戸田昭二・学院長(左)は、こうした英語教育に反発して西南大学時代教材のシェイクスピアの真夏の夜の夢」を辞書なしで読んだ。